



2022年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年7月13日

上場会社名 株式会社コシダカホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 2157 URL <http://www.koshidakaholdings.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 腰高 博
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 土井 義人 (TEL) 03-6403-5710
 四半期報告書提出予定日 2022年7月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年8月期第3四半期の連結業績(2021年9月1日~2022年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2022年8月期第3四半期	27,026	60.7	1,304	—	4,194	—	2,483	—
2021年8月期第3四半期	16,817	△54.9	△4,944	—	△3,432	—	△2,963	—

(注) 包括利益 2022年8月期第3四半期 2,303百万円(—%) 2021年8月期第3四半期 △3,126百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年8月期第3四半期	30.46	29.97
2021年8月期第3四半期	△36.35	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2022年8月期第3四半期	47,961	18,430	38.4
2021年8月期	41,973	18,178	43.3

(参考) 自己資本 2022年8月期第3四半期 18,422百万円 2021年8月期 18,178百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年8月期	—	2.00	—	2.00	4.00
2022年8月期	—	4.00	—	—	—
2022年8月期(予想)	—	—	—	4.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年8月期の連結業績予想(2021年9月1日~2022年8月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	40,093	92.8	2,701	—	5,380	—	3,228	—	39.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年8月期3Q	82,300,000株	2021年8月期	82,300,000株
② 期末自己株式数	2022年8月期3Q	767,296株	2021年8月期	767,296株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年8月期3Q	81,532,704株	2021年8月期3Q	81,532,704株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信【添付資料】P4「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ウクライナ侵攻の長期化等による世界的なエネルギー・食糧の供給不足や、日米金融政策の違いを背景とする急速な円安の進行などにより、物価上昇が進む一方、コロナ禍によるまん延防止等重点措置が3月中には全て解除され、企業活動、個人消費とも徐々にコロナ前の状態に戻りつつあります。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

[カラオケ]

当社ではコロナ禍下においても積極出店を継続し、当第3四半期累計期間においても41店舗を開設しました。3月下旬以降は時短要請もなく、3年ぶりに制約のない状態でゴールドウィークを迎え、リベンジ需要の一部も取り込むことができました。

2019年9月にスタートした中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」の実現に向け、「PG」「ミラPon!」などカラオケ以外のエンターテインメントの提供、採用・教育体制の拡充を進めました。

海外店舗においても、徐々に営業が再開され、一部では営業時間等の制約が解除されました。

当第3四半期連結会計期間末のカラオケセグメントの国内店舗数は、前連結会計年度末比26店舗増加し585店舗、海外店舗数は同1店舗減の3か国11店舗（韓国4店舗、マレーシア6店舗、インドネシア1店舗）となりました。

この結果、カラオケセグメントの売上高は257億5百万円(前年同期比64.9%増)、セグメント利益は18億49百万円(同59億86百万円増益、黒字化)となりました。

[温浴]

温浴セグメントの売上高は6億63百万円(前年同期比9.3%減)、セグメント損失は54百万円(同72百万円赤字額減少)となりました。

[不動産管理]

前年上期中にグランドオープンした「アクエル前橋」は、前期中入居テナントのフル寄与により、当セグメントの収益に大きく寄与いたしました。

この結果、不動産管理セグメントの売上高は8億14百万円(前年同期比64.3%増)、セグメント利益は1億3百万円(同2億82百万円改善、黒字化)となりました。

以上により、当社グループ(当社及び連結子会社)の当第3四半期連結累計期間の売上高は270億26百万円(前年同期比60.7%増)、営業利益13億4百万円(同62億49百万円改善、黒字化)、経常利益41億94百万円(同76億26百万円改善、黒字化)、親会社株主に帰属する四半期純利益は24億83百万円(同54億47百万円改善、黒字化)となりました。

なお、営業時間短縮要請に係る協力金等29億15百万円を営業外収益に補助金収入として計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ59億87百万円増加し479億61百万円(前連結会計年度末比14.3%増)となりました。

(流動資産)

流動資産は25億49百万円増加し119億38百万円(同比27.2%増)となりました。これは主に、現金及び預金が33億80百万円増加したことなどによるものです。

(固定資産)

有形固定資産は38億42百万円増加し273億85百万円(同比16.3%増)となりました。これは主に、建物及び構築物が25億66百万円、土地が11億74百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

無形固定資産は38百万円増加し2億77百万円(同比16.3%増)となりました。

投資その他の資産は4億43百万円減少し83億60百万円(同比5.0%減)となりました。これは主に、敷金及び保証金が4億77百万円増加する一方、繰延税金資産が7億63百万円減少したことなどによるものです。

固定資産の総額は34億38百万円増加し360億23百万円(同比10.6%増)となりました。

(流動負債)

流動負債は3億85百万円増加し104億83百万円(同比3.8%増)となりました。これは主に、短期借入金が30億円減少する一方、未払金が3億55百万円、未払費用が3億3百万円、未払法人税等が7億3百万円、その他が18億50百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

(固定負債)

固定負債は53億50百万円増加し190億47百万円(同比39.1%増)となりました。これは主に、転換社債型新株予約権付社債が40億円、長期借入金が5億82百万円、資産除去債務が6億73百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

負債の総額は57億35百万円増加し295億30百万円(同比24.1%増)となりました。

(純資産)

純資産は2億52百万円増加し184億30百万円(同比1.4%増)となりました。これは主に、利益剰余金が4億24百万円増加したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

世界的なエネルギー・食料供給・物流の不安定化、円安の進行など物価上昇圧力は続くとともに、コロナ新規感染者数の反転が見られますが、現時点では、通常の夏季商戦を迎えられる前提で、2022年4月13日に修正した通期の連結業績予想を維持し、売上高400億93百万円(前連結会計年度比92.8%増)、営業利益27億1百万円(同103億29百万円改善、黒字化)、経常利益53億80百万円(同84億62百万円改善、黒字化)、親会社株主に帰属する当期純利益32億28百万円(73億72百万円改善、黒字化)を見込んでおります。

なお、当社では従来より中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」(Entertainment Infrastructure Plan)を掲げ、①店舗網の拡充とカラオケルーム数の拡大、②各種エンターテインメントの提供、③人財の採用と育成の3点を重点課題と位置づけておりますが、本ビジョンの実現を加速すべく当社はアドバンテッジアドバイザーズ株式会社と事業提携契約を締結しております。

本契約の下、①高度人財の積極的な採用と永続的な成長を維持しうる組織体制づくり、②PER(Private Entertainment Room)を拡充するための、DXソリューションを活用しリアル・デジタルを融合させた、“場所・空間の制約を超えたエンタメ体験価値”の創造による、既存のカラオケにとらわれない新たな顧客体験の創出、③エンタメと健康増進(ウェルネス)を両立させた、「ウェルテインメント」追求型の新業態開発、の3点を重要施策と位置付け、企業価値向上に向けて各種施策を同社とともに推進していく方針で、具体的なプロジェクト複数が進行中でございます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,766,843	9,147,468
受取手形及び売掛金	84,030	439,111
商品	19,912	21,903
原材料及び貯蔵品	196,243	222,356
その他	3,339,597	2,125,293
貸倒引当金	△17,641	△17,679
流動資産合計	9,388,986	11,938,454
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,752,236	20,319,107
車両運搬具及び工具器具備品（純額）	2,446,390	2,395,576
土地	3,344,448	4,518,552
建設仮勘定	—	152,560
有形固定資産合計	23,543,075	27,385,797
無形固定資産		
のれん	9,598	6,039
ソフトウェア	217,651	241,959
その他	11,160	29,227
無形固定資産合計	238,410	277,226
投資その他の資産		
投資有価証券	405,587	283,673
関係会社株式	9,480	9,899
長期貸付金	1,129,652	1,237,982
長期前払費用	70,876	57,350
敷金及び保証金	5,261,103	5,738,236
繰延税金資産	2,198,588	1,435,139
その他	182,308	182,248
貸倒引当金	△454,405	△584,405
投資その他の資産合計	8,803,190	8,360,124
固定資産合計	32,584,676	36,023,148
資産合計	41,973,662	47,961,603

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	189,785	414,626
短期借入金	4,500,000	1,500,000
1年内返済予定の長期借入金	2,956,712	2,938,244
未払金	660,635	1,016,303
未払費用	1,025,926	1,329,614
未払法人税等	59,107	762,345
賞与引当金	129,710	149,748
預り金	148,519	94,581
その他	427,733	2,277,749
流動負債合計	10,098,129	10,483,212
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	—	4,000,000
長期借入金	9,313,768	9,895,924
繰延税金負債	225,906	270,619
資産除去債務	3,409,037	4,082,408
その他	748,460	798,566
固定負債合計	13,697,172	19,047,517
負債合計	23,795,302	29,530,730
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,070,257	2,070,257
資本剰余金	3,302,786	3,302,786
利益剰余金	12,840,049	13,264,196
自己株式	△105,662	△105,662
株主資本合計	18,107,431	18,531,577
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,449	23,727
為替換算調整勘定	43,479	△133,053
その他の包括利益累計額合計	70,929	△109,326
新株予約権	—	8,622
純資産合計	18,178,360	18,430,873
負債純資産合計	41,973,662	47,961,603

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2021年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)
売上高	16,817,406	27,026,327
売上原価	19,288,030	22,875,177
売上総利益又は売上総損失(△)	△2,470,624	4,151,149
販売費及び一般管理費	2,473,546	2,846,253
営業利益又は営業損失(△)	△4,944,170	1,304,895
営業外収益		
受取利息及び配当金	11,376	13,157
為替差益	183,359	57,459
店舗移転補償金	110,000	—
補助金収入	1,097,460	2,915,513
その他	277,576	75,383
営業外収益合計	1,679,773	3,061,514
営業外費用		
支払利息	23,059	40,872
支払補償費	9,714	—
貸倒引当金繰入額	116,857	105,336
その他	17,980	25,332
営業外費用合計	167,611	171,541
経常利益又は経常損失(△)	△3,432,009	4,194,869
特別利益		
固定資産売却益	74,175	84,224
投資有価証券売却益	57,123	—
特別利益合計	131,299	84,224
特別損失		
固定資産除却損	43,900	25,990
減損損失	785,566	75,674
投資有価証券評価損	—	104,205
関係会社株式評価損	44,138	—
特別損失合計	873,605	205,870
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△4,174,314	4,073,222
法人税、住民税及び事業税	118,354	779,599
法人税等調整額	△1,329,110	809,804
法人税等合計	△1,210,755	1,589,403
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,963,558	2,483,819
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,963,558	2,483,819

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,963,558	2,483,819
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20,970	△3,722
為替換算調整勘定	△141,639	△176,533
その他の包括利益合計	△162,609	△180,255
四半期包括利益	△3,126,168	2,303,563
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,126,168	2,303,563

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、顧客が将来のサービス利用時に値引きを受ける権利・ポイント等を付与するカスタマー・ロイヤリティ・プログラムでのサービス提供について、従来は権利・ポイント等の付与時に収益を認識しておりましたが、付与した権利・ポイントを履行義務として識別し、独立販売価格を基礎として、権利・ポイント等の利用による値引き時等に収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は269,812千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ269,812千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は1,570,477千円減少しております。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	カラオケ	温浴	不動産管理			
売上高						
外部顧客への売上高	15,590,083	731,641	495,680	16,817,406	—	16,817,406
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	15,590,083	731,641	495,680	16,817,406	—	16,817,406
セグメント利益又は損失(△)	△4,137,326	△126,580	△178,506	△4,442,412	△501,757	△4,944,170

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△501,757千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「カラオケ」セグメントにおいて、閉店及びソフトウェア開発に係る固定資産の減損損失(特別損失)を計上しております。当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において785,566千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	カラオケ	温浴	不動産管理			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	25,705,274	663,295	1,861	26,370,432	—	26,370,432
その他の収益	—	—	655,894	655,894	—	655,894
外部顧客への売上高	25,705,274	663,295	657,756	27,026,327	—	27,026,327
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	156,482	156,482	△156,482	—
計	25,705,274	663,295	814,239	27,182,810	△156,482	27,026,327
セグメント利益又は損失(△)	1,849,585	△54,420	103,568	1,898,733	△593,837	1,304,895

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△593,837千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失及びのれん等の重要な変動について、該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

「四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「カラオケ」の売上高は269,812千円増加し、セグメント利益は269,812千円増加しております。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。